

2024年
中学生

夏休みにおすすめの本

『かげふみ』 K913 クツ

朽木祥 作 光村図書出版

小学5年生の拓海は夏休みに広島のおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんの家すぐ近くの児童館の図書室で、三つ編みの女の子に出会いました。その女の子はずっと何かを探していました。拓海たち子どもにしか見えない女の子の姿。女の子はいったい何を探していたのでしょうか。そして女の子が拓海たちに伝えたかったメッセージとは…。



『金曜日のあたしたち』 YA F ハマ

濱野京子 作 静山社

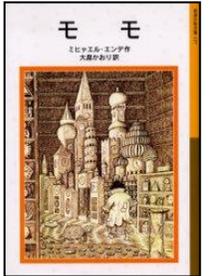
志望校に落ち、不本意な高校生活を送っている陽葵。ある日、駅前で志望校の生徒たちが気候危機を訴えているのに気づき、そのグループに話しかけたことがきっかけで、気候危機について学び始めます。そして、自分に少しずつ自信がつき、自分の高校にも友達が増え、恋も…というお話です。10代らしい自意識や人間関係についての悩みに、SDGsの課題をからめて描かれています。



『モモ』 K943 エン

ミヒヤエル・エンデ 作 大島かおり 訳
岩波書店

モモはどこからともなく町はずれの円形劇場あとにやって来た、不思議な女の子です。モモには“相手の話を聞く”というすばらしい才能がありました。モモに話を聞いてもらおうと、急にまともな考えが浮かんだり希望がわいてきたりするので。ところがそこへ、「時間どろぼう」の男たちの魔の手が…。モモは町の人たちのために立ち向かうことを決めます。



『ぼくらのサイターの夏』 K913 サ

笹生陽子 作 やまだないと・廣中薫 絵
講談社

一学期の終業式の日、6年生のぼくは友だちとの「階段落ち」ゲームに負けたくやさから、無理やり高い所から飛び降りてケガをしてしまいました。おまけに罰として、相手チームの栗田といっしょに4週間のプールそうじをするはめに。サイターの状況で始まったぼくの夏休みはいったいどうなるのでしょうか？



『カラフル』 K913 モ

森絵都 作 講談社

死んだはずのぼくの魂が天使の“抽選”に当たり、もう一度下界で修業するチャンスを得ます。

こうして小林真の体に飛び込んだぼくはどうか生き返ります。前世で犯したあやまちを自覚すれば、無事に昇天できるとあって、真になりすましたぼくは必死になって記憶を取り戻そうとします。



『シンデレラのねずみ』 YA F サイ

斎藤洋 作 偕成社

市立図書館の児童読書相談コーナーで働いている‘わたし’はなぜか本の相談のついでにちょっと奇妙な話を聞かされることがあります。それは不思議な話だったり、ぞっとする話だったりしますが、‘わたし’もまた彼らのような奇妙な体験をしたことがありました。

